

2007年 全修協 天草・島原環境学習セミナー

実施の概要

1. 目的

修学旅行を通して、児童生徒の環境保全に対する思考力・判断力・実践力を育成するために、現地の人々と交流を図りながら、環境教育に関する指導内容・指導方法に関する研修会を実施する。

2. 主催 財団法人 全国修学旅行研究協会

3. 後援 熊本県観光連盟、天草宝島観光協会、関東地区公立中学校修学旅行委員会

4. 協力 全日本空輸（株）、近畿日本ツーリスト（株）

5. 実施期日 平成19年8月16日（木）～18日（土） 3日間

6. 参加人数 18名（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県の公立中学校教師、全修協）

7. 実施箇所 熊本県：天草市、苓北町、 長崎県：南島原市、島原市

8. 講師 平田豊広氏（天草市教育部文化課 世界遺産担当主幹）

9. 研修箇所 天草市：祇園橋、殉教公園千人塚、天草市立本渡歴史民俗資料館（天草切支丹館）

下田温泉五足の靴文学遊歩道、コレジヨ館、崎津天主堂、大江天主堂

天草口ザリオ館、高浜焼寿芳窯

苓北町：富岡城址（富岡ビジターセンター）、富岡の町並み

南島原市：原城跡、原城温泉真砂、原城文化センター（原城跡発掘出土品展示室）

土石流被災家屋保存公園、大野木場砂防みらい館・大野木場小学校被災校舎

島原市：雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）、島原城

セミナーの概要

8月16日（木）羽田から福岡空港経由天草空港に到着。空港から九州産業交通貸切バスで本渡地区に移動し、宿泊ホテルで荷物を預け、昼食・休憩した後、地元ガイドの会の3名の方の案内で、市内の見学に出発した。

最初に、天草・島原の乱の幕府軍と一揆軍の激戦地、町山口川に架けられた「祇園橋」（国指定重要文化財）で説明を受け、その後橋を渡り徒歩で途中の説明を聞きながら「殉教公園・千人塚」へ向かった。炎天下でもあり、わずかに数分歩いただけで汗が噴きだしてきた。後で聞いた話では、この日、埼玉県と岐阜県で最高気温40.9度を記録したとのこと。

千人塚の説明と解説を聞いた後、バスで「本渡歴史民俗資料館」へ。以前の「天草切支丹館」が改修のため、資料館に一時移転をしておられ、こちらで亀子研二館長の解説と案内をいただき、「天草四郎陣中旗」にまつわる話やその価値、鶴田一郎氏の描いた天草四郎原画「祈り」をはじめ、各種資料を見学した。

ホテルに到着後、セミナーを開催。天草市文化課世界遺産担当の平田豊広氏から「天草のキリスト教史と世界遺産登録への取り組み」と題した講演をいただいた。

約1時間半、キリスト教の伝来から宣教師養成学校コレジヨの設置、西洋文化や印刷技術などの普及。そして、キリスト教の禁止政策とそれに続く迫害・殉教と棄教。飢饉と重い年貢の取り立てが影響した天草・島原の乱、天草四郎とはいかなる人が、四郎を作った背景、乱後の天草に至るまで、時系列に沿った歴史を分かりやすく講演された。また、現在長崎の教会群と関連遺産を含めて、世界遺産登録を目指していることへ言及され、課題なども含め活動状況を話された。

講演終了後、ホテルにて地元の「熊本県観光連盟」木原専務理事、「熊本県修学旅行受入推進協議会」会員5名の方々と懇談会を行った。

福岡空港で天草エアラインに乗換



天草島原の乱激戦地・祇園橋（国重文）



殉教公園・千人塚



平田豊広氏の講演



8月17日（金）8時30分宿舎を出発。

昨日に続いての「天草・島原の乱」と、「五足の靴」をテーマの研修として、天草西海岸に向け、地元のガイド4名の方も同乗して出発した。

「五足の靴」は、明治40年（1907）8月、与謝野寛（鉄幹35歳）、木下杢太郎（23歳）、北原白秋（22歳）、平野万里（23歳）、吉井勇（22歳）の若き天才詩人5人が、東京を発ち、天草を目指した紀行文の題名である。それから100年後の同じ8月、彼らの足跡を天草の風土の中に、少しでも見つけることができる旅になればと期待して、朝から30度近い中での出発である。

車中、ガイドの会の皆さんの解説を聞きながら、最初に訪れたのが苓北町の海に突き出た形の「富岡城址」。町役場の方と地元で古くから旅館を経営する岡田達彌氏の解説で、復元中の富岡城を巡りながら、天草・島原の乱当時、富岡城が天草の中心であったこと、一揆軍が攻めたものの落とせず、島原の原城へ渡ったこと。また、「五足の靴」一行が長崎県茂木から船で富岡港に入り、ここから天草の行程が始まりそれに類する逸話など、熱心に解説していただいた。

富岡城を下り、富岡の昔ながらの町並みを散策し、地元で首塚あるいは千人塚と呼ばれる、乱で討死した一揆軍3300人余の首が葬られた「富岡切支丹供養碑」（国指定重要文化財）を、時間の関係で車窓から説明を聞き移動した。

下田の「五足の靴文学遊歩道」は、約3.2kmの山路の旧道が残されており、その内1km位を歩く予定だったが、炎天下、あまりの暑さと道の状況で入口付近だけにとどめ、ガイド解説と記念写真に予定を変えた。

昼食をとるため牛深まで足を伸ばし、途中、車中でガイドの方々の説明を聞きながら、引き返す途中で見学する諸施設の解説を聞いた。牛深ではハイヤ大橋の下の道の駅「レストランあおさ」で昼食。「うしぶか海彩館」などを休憩がてら散策した。

午後最初の見学地は河浦町の「天草コレジヨ館」(文化会館)。宮下館長に案内と解説をしていただいた。

コレジヨ(宣教師養成のための神学校の最高学府で英語のカレッジにあたる)は、1591年から6年間この地に開校され、ラテン語教育や天草本が出版されて、南蛮文化の中核となった。実際の跡地には碑だけが立っている。

館内には、南蛮船の精巧な模型や、グーテンベルク印刷機(複製)、ティセラの日本地図、4人の天正少年遣欧使節団の遺物や巡路図などが展示され、特に、彼らが持ち帰ったグーテンベルク印刷機により、「天草本」として平家物語や伊曾保物語など29種類が出版された。その後、禁教令によりマカオに送られ、その後の消息は分からないとのこと。それから400年ぶりにドイツで復元されたもので、実際に印刷も実演され参加者の興味を引いた。

また、少年使節が持ち帰り豊富秀吉などの前で演奏された数々の西洋楽器は、現代に復元されて地元の人々を中心に、演奏グループ「コレジヨの仲間たち」としての演奏活動を行うための拠点にもなっており、たまたま練習しているところであったため、お願いして臨時に演奏を聞かせていただいた。

「崎津天主堂」は、同じ河浦町の小さな漁港に、昭和9年建立された重厚なゴシック様式の教会で、日曜日のミサなどに今も地元の人々が祈りをささげており、16世紀に伝えられたキリスト教の信仰が引き継がれている教会とのこと。参加者は、入江の小さな町並みと細い道、その奥の教会との対比を興味深く見つめていた。

「大江天主堂」と「天草ロザリオ館」では、ロザリオ館の松本館長に案内いただいた。

北原白秋が「パアテルさんは何処に居る」とあこがれたパアテルさん(ラテン語で神父さん)は、当時大江と崎津の二つの教会の司祭を兼ねていたガルニエ神父(フランス人)で、明治18年25歳で来日。大江には明治25年(32歳)から昭和17年(82歳)に亡くなるまで50年間滞在し、生涯独身を通し、昭和8年には私財を投じて現在のロマネスク様式の教会を竣工させ、天草弁もうまく、人々に大いに慕われていたという。

また、天主堂の前には100年前に吉井勇が「五足の靴」の中で詠んだ「白秋とともに泊まりし天草の大江の宿は伴天連の宿」の歌碑の隣に、45年後の昭和27年に再訪した際に詠んだ「ともにゆきし友みなあらず我一人老いてまた踏む天草の島」の歌碑が並んでおり、歌碑自身からも歳月を感じさせられるように建っている。

「天草ロザリオ館」は、天草のキリシタン史が分かりやすく紹介され、隠れキリシタンに関する資料や再現された「隠れ部屋」、五足の靴一行の大型パネルなど、充実した資料を松本館長から丁寧に説明していただいた。

高浜へ移動し、340年前から代々庄屋を続けており、「五足の靴」も訪れた旧家「上田家」。文政時代に建てられたという屋敷を通り抜け、隣に6代目が開窯した「高浜焼寿芳窯」へ。

天草で採掘される陶石が国内陶磁器原料の80%を占め、量だけでなく質も世界一といわれていることが、あまり知られていないことから、最近になって「アズレージョ体験」(絵陶板体験)として始めたものを、実際に参加者に体験してもらいたいということから、今回のセミナーで唯一の制作体験を行った。

時間が残り少なく、陶石の採掘や陶土に変える工程などを省いての体験だったが、全員はがき大の陶板に思い思いの絵を描いて、後日焼きあがって送られてくるのを待つことにした。

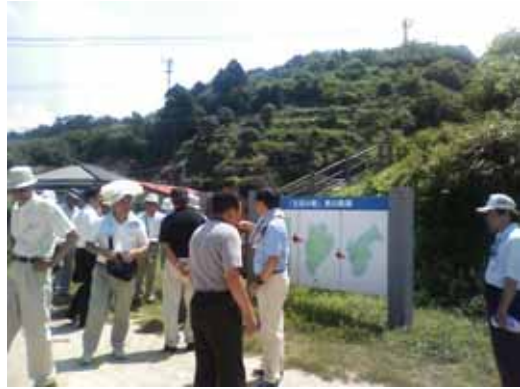
前日に続いて炎天下の研修だったが、参加者の熱対策と地元の方々やバス乗務員さんの心配りで、二日目も予定通りに研修を終え、宿舎の下田温泉に到着した。

また、天気の良いおかげで、午後7時10分頃(東京では日没6時30分)、東シナ海の水平線に沈む夕陽を見ることができた。

復元中の富岡城址



五足の靴文学遊歩道入口



天草コレジヨ館「コレジヨの仲間たち」の演奏



天草コレジヨ館 グーテンベルク印刷機



崎津天主堂



大江天主堂



天草口ザリオ館館内



アズレージョ体験



8月18日(土)8時30分に宿舎を出発。

3日目も快晴(炎暑)。バスで鬼池港に向かい、フェリーで島原半島口之津港へ。

口之津港で南島原市役所地域振興課の川崎課長、村里参事、中島主事。ガイドをしていただく教育委員会の鬼塚主査の出迎えを受け、先導していただきながら原城跡へ向かった。

駐車場のバスの中で配布資料と一通りの説明を受けた後、今回のテーマの一つである「天草・島原の乱」の終焉の地、原城跡を徒歩で見学した。

乱鎮圧後の幕府による徹底的な破壊もあって、当時を偲ぶ建造物類はほとんどなく、解説がなければ何も分からない土と石の丘だったのが、平成4年からの発掘調査により堀や石段がかなり復元され、見学路も整備されつつある。また、今回は鬼塚氏の解説と案内により、かなり詳しい様子を知ることができ、参加者の反応も良かった。

また、南島原市が原城の発掘と整備、資料展示などに本格的に取り組んでいる様子も伝わってきた。

炎天下の原城跡見学を終え、「原城温泉真砂」でお茶をいただき休憩した。その後、「原城文化センター」内の「原城跡発掘出土品展示室」を案内いただいた。火縄銃の弾丸で作ったと思われる十字架やメダル、ロザリオ等の発掘品の他、発掘現場を再現したジオラマのおびただしい人骨や瓦などの出土状況が、レプリカとはいえ迫力ある展示となっていた。

市役所の方々に見送られ、道の駅「みずなし本陣ふかえ」に向かい、到着後昼食。その後隣接の「土石流被災家屋保存公園」を職員の方の案内で見学した。実際の被災家屋を間近に見た参加者の反応も様々で、いろんな感想が聞かれた。

再びバスで、「雲仙岳災害記念館(がまだすドーム)」へ向かい、堀下課長・尾高主任の出迎えと説明を受けた後、館内を案内いただいた。

平成14年7月に完成したこの施設は、平成2年11月からの雲仙・普賢岳の噴火による度重なる火砕流や土石流の大きな被害から、復興のための再生計画のひとつとして整備されたもので、館内には迫力の平成大噴火シアターをはじめ、島原大変劇場、平成噴火シミュレーション、火砕流直後の北上木場付近の情景ジオラマなど、映像や体験・展示資料に見所が多く、学校の生徒にも学習素材として非常に好評とのことでした。

雲仙・普賢岳(平成新山)関連の最後の見学は、火砕流の直撃を受けた「旧大野木場小学校」へ。

国土交通省雲仙復興事務所「大野木場砂防みらい館」の施設の一つとして保存されているこの学校は、当時、度々マスコミにも紹介されたことで記憶に残っている参加者も多く、久富運責任者の案内で先ず学校から見学した。間近に普賢岳、すぐ裏の山裾の火砕流跡などと同時に見ることで、参加者は全員教員でもあるだけに興味を引いていました。

引き続き久富氏の案内で砂防みらい館の見学に移り、火山砂防学習として展示されている火砕流・土石流のビデオや監視カメラ体験コーナー、深江町・大野木場の人々の記憶・暮らしなどを見学、また砂防工事の無人化施工技術あゆみの展示・体験施設も見学して終了した。

今行程の最後に、城下町・島原の一端に触れるべく、島原城の見学を入れた。昭和39年に復元された天守閣は、館内にキリシタン関連を中心に約400点の資料・武具・民具などが収められ、展示されている。解説員の松尾さんに館内を案内していただいた。

セミナーをすべて終了し、バスでがまだすロードからグリーンロードを経由して、途中諫早湾の干拓地を遠望しながら長崎空港へ。空港到着後、出発ロビーで解散式を行い、羽田空港に向かった。

3日間共、快晴というか炎天下というか、とにかく暑かった。しかし、日本列島全域が猛暑といえる中、おおきく体調を崩す人もなく全員無事に終えたことは、参加者本人はもとより地元の受入の皆さんや九州産業交通バスの乗務員の方などに、お心遣いいただいたことも大きかったと思います。あらためて、お世話になりました多くの皆さんに御礼申し上げます。

原城跡 本丸大手門跡付近



原城跡 布陣図



原城跡 天草四郎像



原城跡発掘出土品展示室



土石流被災家屋保存公園



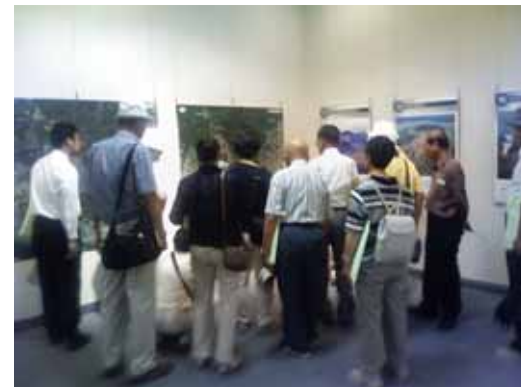
雲仙災害記念館（がまだすドーム）



大野木場小学校被災校舎



大野木場砂防みらい館



(以上)

《今回のセミナーにご協力いただいた方々の連絡先》

- ・ 熊本県観光連盟 TEL : 096-325-6360 URL : <http://www.kumakanren.com>
- ・ 天草宝島観光協会 TEL : 0969-22-2243 URL : <http://www.amakan.ne.jp>
- ・ 天草市教育文化課 TEL : 0969-32-6784 URL : <http://www.city.amakusa.kumamoto.jp/>
- ・ 南島原市地域振興課 TEL : 050-3381-5032 URL : <http://www.city.minamishimabara.lg.jp>
- ・ 南島原市教育委員会 TEL : 050-3381-5083

研修日程

日次	スケジュール（講師及び案内・解説）	
第1日 8月16日 (木)	08:30 10:20 10:55 11:30 12:00 13:00 14:00 15:20 17:00	羽田空港発（ANA243便） 福岡空港着 福岡空港発（天草エアライン104便） 天草空港着 本渡「天草プリンスホテル」着 昼食 本渡 祇園橋～徒歩～千人塚：天草ガイドの会案内 天草切支丹館：亀子館長解説 セミナー開始 中西理事長挨拶 講演：平田豊広氏（天草市文化課 世界遺産担当） 「天草のキリスト教史と世界遺産登録への取り組み」 セミナー終了 「熊本県観光連盟」「熊本県修学旅行受入推進協議会」と懇談会
第2日 8月17日 (金)	08:30 09:30 11:10 12:20 13:35 14:40 15:20 15:50 16:25 17:45	宿舎出発：天草ガイドの会5名同行 富岡城址（ビジターセンター）：岡田氏案内 富岡の町並み散策 下田温泉 五足の靴文学遊歩道 牛深 ハイヤ大橋「レストランあおさ」昼食 天草コレジヨ館：宮下館長案内と解説 「コレジヨの仲間たち」演奏 崎津天主堂：ガイドの会案内 大江天主堂：松本ロザリオ館長案内と解説 天草ロザリオ館：" 高浜焼寿芳窯 アズレージョ体験 宿舎着 下田温泉ジャルディンマール望洋閣
第3日 8月18日 (土)	08:30 09:30 10:00 10:20 12:45 13:50 15:15 16:15 18:15 19:25 21:05	宿舎出発 鬼池港発フェリー 口之津港着 原城跡 南島原市地域振興課：川崎課長・村里参事・中島主事 教育委員会：鬼塚主査 案内と解説 原城温泉真砂・原城文化センター内「原城跡発掘出土品展示室」 みずなし本陣ふかえ 昼食 土石流被災家屋保存公園 雲仙災害記念館（がまだすドーム） 大野木場小学校被災校舎：久富氏案内 大野木場砂防みらい館：" 島原城 長崎空港着 空港ロビーにて解散式 長崎空港発（ANA670便） 羽田空港着 解散